

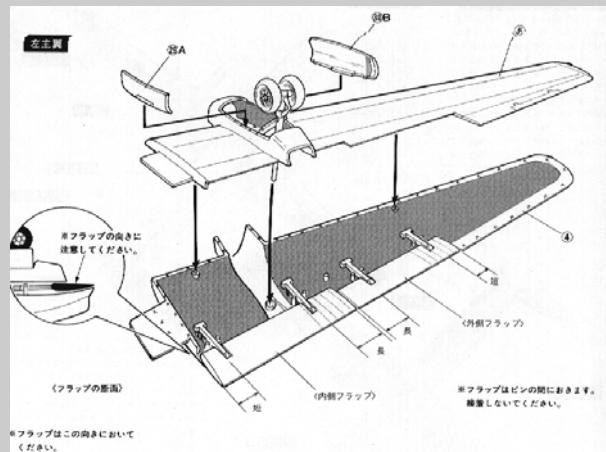
# 第1回 1/72 YS-11(バンダイ)の巻



YS-11は日本航空技術の粋を結集して開発された戦後最初(最後とならない事を切に願う)の旅客機である、という事をご存知の方も多いでしょう。数年前にNHKの「プロジェクトX」で取り上げられたのは記憶に新しいところです。私の地元の飛行場もかつてはYS便が就航しており、ジェット化に際して私が「なくなる前に是非乗っておきたい」と言ったところ家族全員から猛反対を喰らってその夢が果せなかつた苦い思い出が胸をよぎります。

さて、国家事業の成果ともいるべきYS-11ですが、立体としては呆れるほどに不遇な扱いを受けています。二十世紀末に童友社とハセガワから相次いで1/144のキットが発売されましたが、それまでは今回取り上げているバンダイの1/72キットが唯一の模型でした(空港の売店には何かしら売っていたのかもしれません、今となっては確認不可能)。デカいキットは苦手な私(1/48の単発レシプロ機は私には充分「デカい」です)も、日本に生まれたヒコーキ好きの端くれとして使命感に燃えてこのキットを購入したのです。

このキットを購入したのは1990年前後で、昔からの商店街の老舗の模型店にありました。ここの老主人は飛行機プラモを買いに行くと、旧制中学時代グライダーで飛んだ話や満州で新司令部偵察機で着陸時に尾輪が滑った話を必ずといって良い程聞かせてくれました(喋り終えないと売ってもらえない)。



このキットは海上保安庁バージョンで機体側面ドーム部品等が追加されているのですが、多分ノーマルにも組めると信じて購入。箱を開けるとまず目に飛び込んできたのが大きくて真っ青な胴体部品、しかもリペットのモールドがビッシリ。もう見るだけで満腹という感じで今日に至っています。ちなみに上の写真で垂直尾翼の間にあるのは三点着陸用のオモリです。

昔の飛行機模型には可動部分の有る物が少なくありません。大きいキットでは特にそれが「売り」となっていました。このYSも当然各ラダーが可動するのですが、特筆すべきは引き出し式のフラップ可動を再現したことです(左図参照)。実際に旅客機を利

キットデータ	
メーカー	バンダイ
スケール	1/72
当時価格	1200円(税抜)

用すると機内から見えるフラップの可動機構は大変興味深く、何回見ても飽きません(私だけ?)。当時の子供達の憧れのキットだったのではないですか?